

# 鹿屋で暮らす

近年、急速な少子高齢化・人口減少により、将来に様々な影響を及ぼすことが懸念されています。市では、人口を増やす・維持するため、大隅地域の拠点都市としての存在価値を高め、若者に魅力的な住環境や雇用、教育環境を創造し、鹿屋の地域力を結集して地方創生に取り組みたいと考えています。

今回は、この地方創生事業の二環として開始した「空き家バンク」をはじめとする定住促進事業と、「空き家バンク」を活用し移住された皆さんの声を紹介します。

鹿屋市地域活力推進課（3階） ☎0994-31-1147



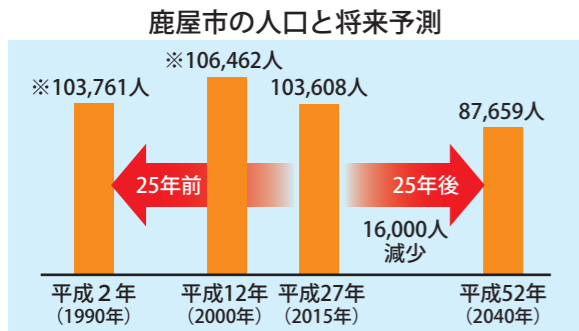
11月、広島県福山市から鹿屋市へ移住した今川恵介さん・淳子さん夫妻と愛犬チャッピー。「空き家バンクを利用した家はしっかりした造りで、持ち主が大事にしていたことが伝わります。静かで、便利が良いところも気に入っています」と語る。

## 鹿屋市の人口と将来予測

鹿屋市の人口は2000年（平成12年）から減少傾向にあり、さらに2011年（平成23年）以降は、自然増減と社会増減がともにマイナスの状態が続いています。このまま推移すれば、2040年までに9万人を割り込み、2060年には約7万2千人まで減少すると見込まれています。

## 人口減少克服の戦略

そこで鹿屋市は、「鹿屋・大隅が成長する活力を取り戻し、人口減少を克服する」ため、平成27年10月、「鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し



ました。これは、急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけることにも、それぞれの地域で住み良い環境を確保して、将来にわたって、活力ある社会を維持していくというものです。

市民一人ひとりが夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成、地域社会を担う個性豊かな多様な人材の確保、地域における魅力ある多様な就業機会の創出を一体的に推進する施策を総合的かつ計画的に実施することとしています。

## 人口9万人維持のための施策

「総合戦略」では、「2060年に9万人程度の人口を維持する」と目標を掲げています。そのために、働く場の確立・拡大、子育て環境の充実、健康寿命の延伸などを進めることとしています。

定住促進に関する事業もその一環であり、定住を促進するために、昨年度から、市外からの移住希望者に対して空き家や就業等の情報を提供するなど、各段階に応じたきめ細かな支援策を進めています。

## 定住促進への取り組み

### 空き家バンク

近年、放置された空き家の増加が全国的に社会問題となっています。最も大きな要因は住民の転出。不要になった家屋の多くは、必要に応じて所有権の移転や解体などが行われますが、様々な理由で、手付かずのまま空き家となってしまうものも多々あります。

しかし、空き家の中にはまだ快適な環境で人が住めるものがたくさんあります。そこで貴重な資源である空き家を、地方創生事業の一環である「定住促進」につなげようと、市は平成27年6月から「空き家バンク」を創

設しました。

「空き家バンク」とは、市内の空き家情報を市のホームページ等で紹介することにより、主に都市圏からの移住希望者を呼び込もうという制度です。

平成27年4月から配置している定住相談員が、「空き家バンク」の掘り起こしを行うとともに、移住相談に対しては積極的な情報提供を行い、住宅改修助成や家賃助成等制度の活用を勧めるなど、移住に結び付くよう務めています。

平成28年11月現在、これまで78件の移住相談が寄せられており、実際に「空き家バンク」を利用した移住者は、9世帯19人

### 居住体験住宅

となっています。

地域の暮らしを体験してもらい、移住に結び付けるため、美里吾平コミュニティ協議会が運営する居住体験住宅「吾楽暮」を移住希望者に紹介し、利用に対して助成を行っています。

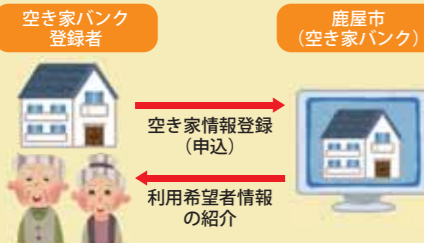


居住体験住宅「吾楽暮」の室内

このほか、様々な助成事業も行っています。

## 空き家を貸したい人・売りたい人は市地域活力推進課へご相談を！

鹿屋市内に空き家を所有する人で、移住希望者に対し、市のホームページを通じて空き家の情報提供を希望する人は、ぜひ「空き家バンク」にご登録ください。



特に、少し手直しすれば、人が住めるような空き家をお持ちの人は、次のような助成もありますので、ぜひご相談ください。

### ◎「空き家バンク」に登録するための家財等の処分費用助成

補助率=対象経費の3分の2(上限5万円)

### ◎「空き家バンク」登録住宅の改修費用の助成

補助率=対象経費の2分の1(上限50万円)

※このほか、町内会等の地域団体が、地域の空き家をお試し住宅に改修する場合の助成事業等もあります。